

広背筋皮弁による乳房再建における継時的皮弁量変化の検討

①対象

2013年1月以降広背筋を用いて乳房再建を受けた方

②研究機関名

大阪大学医学部附属病院 形成外科 （責任者：富田興一）

③目的と意義

乳癌切除時に自家組織を用いて乳房再建を受けられる患者さんはたくさんいらっしゃいます。しかし、術直後はちょうどよかった再建乳房の大きさが時間がたつと変化してしまうことがあります。その時間経過とともに変化する再建乳房の大きさを調査することで、よりよい乳房が再建出来、患者さんの生活の質（QOL）向上に大きくつながると考えています。

④方法

当科では術後1ヶ月、1年、その後1年毎に3Dスキャナーによる乳房形態記録をルーティンで行っているため、それらのデータを収集し、解析ソフトを用いて皮弁量変化を評価します。侵襲を伴う検査や費用も一切発生しません。診療録はすべて個人が特定できないよう匿名化して使用します。自分の診療録を使用しないでほしいという希望がありましたら担当医までご相談ください。また何か不明な点がありましたら主治医までご相談ください。

⑤プライバシー

本研究では患者さんの名前や住所は使用しません。

⑥問い合わせ先

研究責任医師：富田 興一 助教

連絡先：大阪大学医学部附属病院 0668795530